

早稲田大学 スポーツ科学部 小論文 解答例

従来のじゃんけんは、ほぼ運で決するところから、心理戦の要素はほとんどなかった。

そこで、従来のじゃんけん心理戦の要素をいれるべく、「キュー」という手を考案していきたい。この「キュー」は、「キュー」を出した者以外の者があいこであった場合に、「キュー」を出した者のみが勝ち、逆に「キュー」を出した者以外の者の間で勝敗が決した場合、「キュー」を出した者も負けるという手である。

たとえば四人でジャンケンをして、「グー、チョキ、パー、キュー」と出した場合、「キュー」以外があいこなので、「キュー」の一人勝ちとなり、逆に「グー、チョキ、チョキ、キュー」なった場合、「キュー」以外の「グー、チョキ、チョキ」で勝敗が決することから、「キュー」が自動的に負けることになる。また、「グー、グー、キュー、キュー」となった場合は、「キュー」以外があいこになっていることから、「キュー」を出した二人が生き残り、決勝戦となるということだ。

この「キュー」の手を入れることで、プレイヤーの人数の増加に伴い心理戦に発展するのが魅力といえる。

たとえば二十人でじゃんけんをした場合を想定してほしい。通常のじゃんけんでは、ほぼ100%の確率であいこになることが予想される。そこで、プレイヤーのほとんどが「キュー」を出すだろう。しかし、これすらも予想の範ちゅうとなることがこのゲームの面白いところである。あるプレイヤーが、十七人程度「キュー」を出すと予想したとしよう。すると、自分も「キュー」を出すだろうか。この場合、ほとんどのプレイヤーが「キュー」を出すと予想しているのだから、通常の「グー、チョキ、パー」を出したほうが、勝率が高まるはずである。後は通常じゃんけんの勝負に勝てば一気に一人勝ちとなる。ただし、この予想を複数の人がした場合は、今度は通常のじゃんけんの手ではあいこになる確率が高まり、今度はキューを出した者が生き残るのである。

この予測が従来のじゃんけんにはない心理戦の魅力である。

ただし、最大の欠点は、他があいこである場合でしか「キュー」は機能しないことである。したがって二人で行う通常のじゃんけん心理戦に「キュー」を入れることは無意味であり、この手は機能しない。じゃんけんはおよそ二人で行う場合が多いことから、これが最大の欠点といえる。